

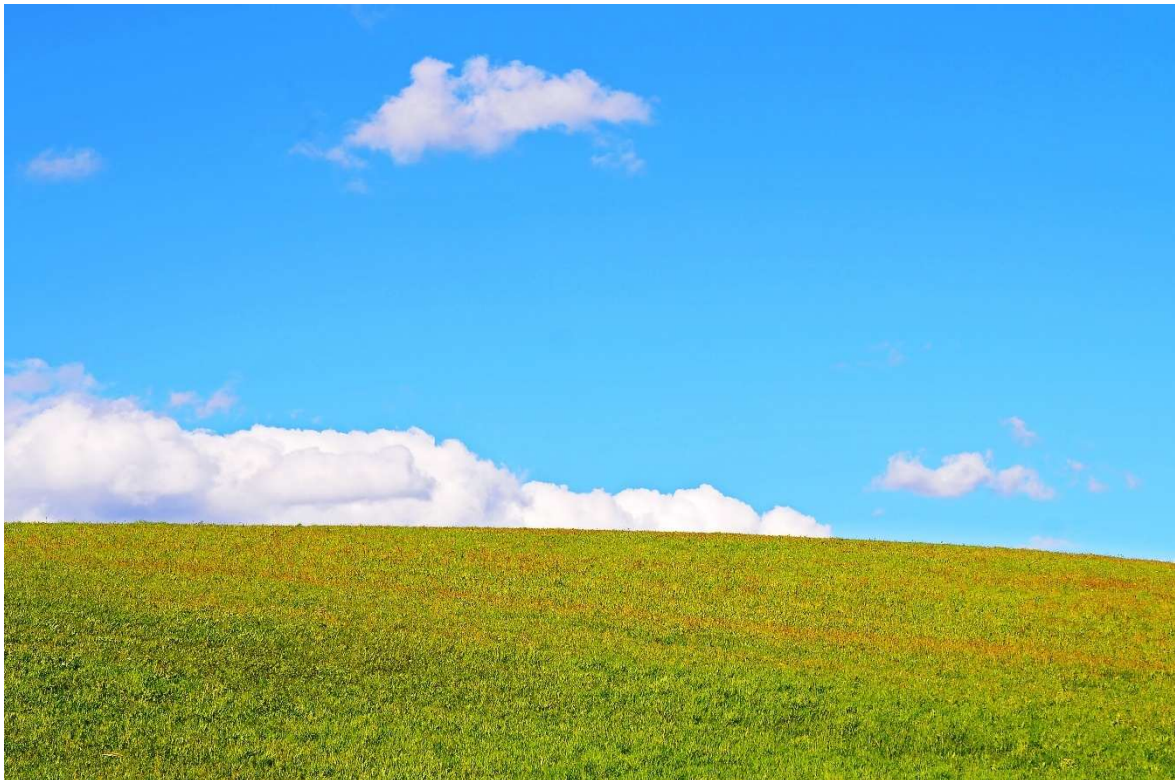


エコアクション21<sup>®</sup>  
認証番号 0004712

## エコアクション21

### 2024 年度環境活動レポート

(対象期間 2024 年 4 月～2025 年 3 月)



 **山田化成株式会社**  
YAMADA KASEI COMPANY,LTD.,

発行日:2025 年 6 月 1 日

URL:<http://www.yamada-kasei.co.jp>

## 1. 会社の概要

(1) 名称

山田化成株式会社 (YAMADA KASEI COMPANY, LTD.)

(2) 代表者

取締役社長 山田善大

(3) 所在地

[本社] 東京都千代田区内神田2丁目8番4号

[大阪支店] 大阪市西区西本町1丁目14番18号

[東北営業所] 山形県米沢市中田町1229-1

(4) 認証・登録範囲

[対象事業所] 本社、大阪支店、東北営業所

[対象活動] 工業薬品、精密化学品、合成樹脂等の仕入れ販売

(5) 資本金 5,000 万円

(6) 主たる事業の内容

当社は創業 100 年を超える化学品専門商社として、国内外の幅広いお客様へニーズに合った最適な商品を提供しております。

工業薬品、医薬品、試薬、農薬、染料、顔料、塗料、樹脂、その他化学製品及び加工品の売買並びに輸出入

(7) 大株主 山田善大、三菱ガス化学株

(8) 事業の規模

項目	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
売上高	百万	10,084	10,210	10,278
従業員数	全社	46	47	49
	本社	26	26	26
	大阪支店	17	18	18
	東北営業所	3	3	3
建物床面積	全社	1,018	1,018	1,018
	本社	331	331	331
	大阪支店	190	190	190
	東北営業所	497	497	497

(9) 環境管理体制

環境管理責任者 常務取締役 亀山 充史

環境管理事務局長 営業部 部長代理 富澤 一雄

---

## 2. 環境方針

山田化成(株)は、すべての事業活動に伴い発生・消費する環境負荷を低減する為に、次の方針に基づき環境経営活動を推進して地球環境との調和を目指します。

- ・ 社内の環境を常に意識し、自主的・積極的に環境への取り組みを進め、継続的に環境負荷の低減を図ります。
- ・ 事業活動に適用される環境関連法規及びその他の要求事項を正しく理解し遵守します。
- ・ 環境への負荷の低減の為に、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。

- (1) 二酸化炭素排出量の削減
- (2) 電力使用量の削減
- (3) 化石燃料、水資源の使用量の削減ないし効率的な使用
- (4) コピー用紙の使用量削減等、廃棄物の削減
- (5) オフグレード品・リサイクル品の販売強化

以上、一人一人が、環境負荷低減活動に積極的に取り組み行動出来るように、この環境方針を全社員に周知すると共に環境レポートを社外へも公表します。

上記方針達成の為に、目標を設定し定期的に見直す事により、環境経営システムを効果的に運用し、企業としての環境への社会的責任を果たします。

制定日 2009年4月1日

改訂日 2018年4月1日

山田化成株式会社  
取締役社長 山田 善大

### 3. 実施体制

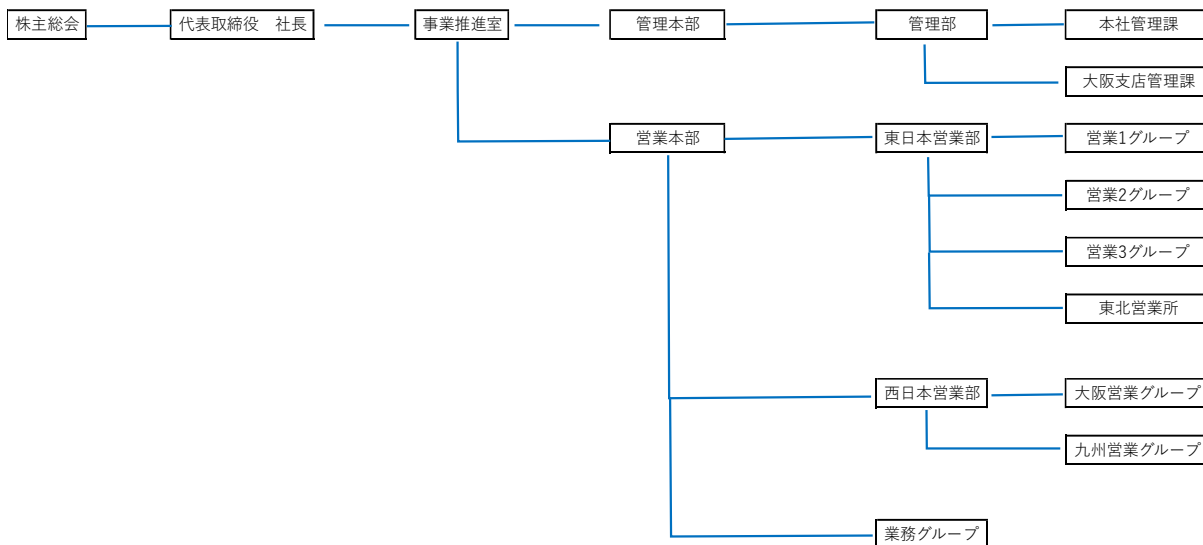
#### 山田化成（株） 環境管理組織図

2025年4月1日

〈 実施体制 〉

代表者（社長） 山田善大	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する総括責任</li> <li>環境経営システムの実施に向けた効果的で必要十分な体制を構築</li> <li>環境経営システムを運用・維持するための経営資源の用意</li> <li>環境管理責任者の任命</li> <li>環境経営方針の策定・見直し</li> <li>各自の役割、責任及び権限の設定と全従業員への周知</li> <li>環境経営目標・環境経営計画の承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しの実施</li> <li>経営における課題とチャンスの整理と明確化</li> <li>環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者 亀山充史	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築・実施・管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表の承認</li> <li>環境経営目標・環境経営計画表の確認</li> <li>環境活動の取組み結果を代表者に対し報告</li> <li>環境活動レポートの確認</li> </ul>
環境管理事務局長 富澤一雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、EA推進委員会の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取組みの自己チェックの実施</li> <li>環境目標・環境活動計画書の原案作成、環境活動の実績集計</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表の作成</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表に基づく順守評価の実施</li> <li>環境活動の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境活動レポートの作成・公開（事務所内での備付と地域事務局への送付）</li> </ul>
場所責任者  富澤一雄（本社） 伊藤直哉（大阪） 佐藤大輔（東北）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営システムの実施</li> <li>自部門における環境経営方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応手順書作成・テスト訓練の実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施</li> </ul>

#### 山田化成（株） 全社組織図



## 4. 環境目標

### (1) 過年度の実績

項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
CO <sub>2</sub> 排出量	Kg-CO <sub>2</sub>	31,047	32,772	29,958	27,521	30,407
電力使用量	Kwh	58,305	62,830	55,010	48,951	52,482
ガソリン使用量	ℓ	837	757	826	1,383	1,662
灯油使用量	ℓ	162	180	108	64	180
ガス使用量	m <sup>3</sup>	16	13	17	14	14
水使用量	m <sup>3</sup>	235	183	251	326	261
コピー紙使用	千枚	170	188.5	209.5	194.5	199.0
化学物質管理	kg				141.64	159.64
グリーン購入	%	36.5	60.1	62.4	64.9	67.7
再生材料販売	千円	—	—			
	Kg	1,201,951	959,834	951,370	655,510	287,170

- ・2023年度の排出係数は本社(東京)0.441、大阪0.334、東北0.521とした。
- ・再生材販売は2020年度より数量管理に変更した。
- ・産業廃棄物排出量:  
東北営業所にて年間1kg未満の排出があり、所属する共同組合米沢総合卸売センターに委託し、他組合員と共同で排出している。卸売センターが数量管理を行い、費用は組合費にて充当。
- ・化学物質(PRTR制度対象物質)は使用量の管理とする。

## (2) 2025 年度の環境目標と実績

- ・ 2024 年度実績を基準年とし、2025 年度以降、各年度ともに 2%程度の改善を目標とする。

項目	単位	2024 年 単年目標	2024 年度 実績 (基準)	2025 年 目標	2026 年 中期目標
C02 排出量	Kg-CO2	24,460	30,407	28,596	26,000
電力使用量	Kwh	48,045	52,482	49,120	48,000
	基準比			93.6%	91.5%
ガソリン燃費	Km/ℓ	21.0	22.0	22.0	22.5
	基準比			—	—
灯油使用量	ℓ	72	180	126	100
	基準比			175.0%	138.9%
ガス使用量	m <sup>3</sup>	数値監視	18.9	数値監視	数値監視
水使用量	m <sup>3</sup>	数値監視	261.4	数値監視	数値監視
コピー紙使用	千枚	190.0	199.0	192.5	188.0
	基準比			96.7%	94.5%
化学物質管理	Kg	数値監視	159.64	数値監視	数値監視
グリーン購入	購入比率	70.0	67.7	70.0	70.0
	基準比			—	—
再生材料販売	Kg	488,566	297,170	284,000	300,000
	基準比				

- ・ 2025 年度の目標は前年目標比 2%の改善を軸に設定した。
- ・ 2024 年度実績及び 2025 年度以降目標における C02 排出量は、購入電力の排出係数を東京を 0.441 (kg-CO2/Kwh)、大阪 0.334 (kg-CO2/Kwh)、東北 0.521 (kg-CO2/Kwh) とする。
- ・ 再生材料販売の 2015 年より年単年目標は販売予算ベースとし、以後毎年 2%増を目標とする。

## 5. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

項目	活動計画	結果と評価	評価	次年度の取組
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標</li> <li>・退社時のコピー電源 OFF</li> <li>・クールビズ<sup>®</sup>の継続</li> <li>・空調機稼働時間の徹底</li> </ul>	<p>本社ではエアコン交換の効果が一巡したことで大幅な改善は無かったが、目標は達成。一方で東北での使用量が増え、全社では未達となった。</p>	×	引き続き、会議室、トイレ、給湯室は未使用時の消灯を徹底すること。エアコンは適温を守り、冬場はなるべく一枚多く羽織るなどの工夫で適正温室を保つように徹底する。
ガソリン燃費向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃費を把握する</li> </ul>	<p>年間累計で燃費 22km/L を達成。</p>	○	エコドライブの撤退を継続
灯油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標</li> <li>・温度管理の強化</li> <li>・器具の清掃・点検の強化</li> </ul>	<p>燃料費高騰前、および冬場に向けた購入を行ったため使用量（購入量）が激増。</p>	×	購入時期と量の適正化を徹底すること
ガス使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量の監視継続</li> </ul>	<p>東北で落雷によるメーター故障があり、推定値となっている。</p>	×	監視継続 メーターの修理を実施
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量の監視継続</li> </ul>	<p>適切な使用量となった。</p>	○	継続監視
コピー紙使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標</li> <li>・必要枚数の確認</li> <li>・紙での配布資料の削減</li> <li>・両面コピーの推進</li> <li>・プロジェクターの活用</li> </ul>	<p>目標未達どころか、昨年の使用量をも上回った。削減に対する意識が薄れたのか、無駄があるのか検証が必要。</p>	×	不必要な印刷の有無を再検証のこと（特に業務G）。
グリーン調達 の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標を、事務消耗品購入代金に占めるグリーン商品の比率とした。</li> <li>・グリーン対象商品の優先的購入</li> </ul>	<p>年々目標値の 70% に近づいてきている。最後に 2 月、3 月での失速が残念至極。次年度こそ 70% 超えを達成したい。</p>	×	意識と基準は高まりつつあるので、引き続き活動を継続。
リサイクル材料の 拡販	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標</li> <li>・再生樹脂・オフグレード品の拡販</li> </ul>	<p>計画未達で終了。営業面及び環境活動の両面で苦戦。</p>	×	環境面以前に営業面でも必達のこと。

## ■ 次年度の事業所別目標数値

項目	単位	2024年度	2025年度			
		基準年	全社計	本社	大阪支店	東北営業所
CO2排出量	Kg-CO2	30,407	28,596	11,980	2,450	14,166
電力使用量	Kwh	52,482	49,120	27,170	7,330	14,690
GS燃費向上	Km/ℓ	22km/ℓ	22 km/ℓ	—	—	22m/ℓ
灯油使用量	ℓ	180ℓ	126ℓ	—	—	126ℓ
ガス使用量	m <sup>3</sup>	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視
水使用量	m <sup>3</sup>	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視
コピー紙使用	千枚	198.0	192.5	109.5	52.5	30.5
化学物質管理	Kg	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視
グリーン調達	%	購入金額 × 67.7%	購入金額 × 70.0%	購入金額 × 70.0	購入金額 × 70.0	購入金額 × 70.0
再生材料販売	kg	287,170	284,850	221,950	62,900	—

グリーン調達はこれまでの活動実績を踏まえ、70%を現実的な目標設定とする。

- ・ガス及び、水（水道水）は使用量が少なく環境への負荷が小さいので数量監視のみ継続し数値目標の設定はしない。
- ・ガソリンは主に営業車で使用のため、使用量を把握しつつ、燃費を管理する。

## 6. 当社事業に係わる主な環境関連法規

分野	主な法令等の名称	適用対象となる事項
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物、産業廃棄物
	フロン排出抑制法	第一種特定製品の簡易点検
防災	消防法	危険物の保管・管理
		消火器の管理
化学物質	特定の化学物質の環境への把握及び管理の改善の促進に関する法律	SDSの提供（取次）
	毒物及び劇物取締役法	営業の登録・更新 毒劇物の保管・管理 取扱い責任者

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間なく、現在係争中の訴訟等もありません

---

## 7. 代表者による全体の評価と見直し

2024年度の環境活動については、各事業所で計画に基づく取組を進めてきたものの、全体としては目標水準には届かず、さらなる改善が求められる一年となりました。CO<sub>2</sub>排出量、電力使用量、コピー用紙使用量のいずれも増加傾向を示し、総じて環境負荷低減の面では決して満足のいく結果ではありません。この結果を真摯に受け止め、根本的な見直しを進めてまいります。

CO<sub>2</sub>排出量については、購入電力の使用増加が主要因となり、前年実績を上回る結果となりました。今後は、電力については、空調設備更新の効果が一巡したことに加え、一部拠点での管理意識のばらつきが影響したと考えられます。次年度は、エアコンの温度設定や不要時の照明消灯など、日常の省エネ行動を徹底するとともに、使用量の見える化を強化し、全拠点で一体となった削減活動を推進します。また、社員一人ひとりが「省エネの積み重ねがCO<sub>2</sub>削減につながる」ことを実感できるよう、教育・周知を強化します。

コピー用紙の使用量についても前年を上回り、ペーパーレス化の取組が十分に浸透していないことが明らかになりました。今後は、「印刷前に立ち止まる」行動習慣の定着を全社的に推進するとともに、会議資料や社内文書の電子化を標準運用とし、不要な印刷を削減します。

グリーン調達や再生材料販売については、一定の改善傾向が見られる一方で、いずれも目標値に到達しておらず、継続的な努力が必要です。単なる数値目標の達成ではなく、環境配慮が企業活動の当たり前となる意識変革を重視してまいります。

山田化成は創業100年を超える企業として、環境への責任と持続可能な事業成長を両立させることを引き続き経営の根幹に据え、社会から信頼される企業であり続けることをここに誓います。

2025年6月1日  
取締役社長  
山田 善大